

横浜市立つつじが丘小学校 令和3年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標

- 教職員が一丸となって次のことに取り組み、魅力ある温かな学校づくりを目指します。
- 教職員の研究・研修を充実させ、子どもが主体的に問題を見つけ、対話的な深い学びを通して、問題解決する力を育てます。
 - 児童支援体制を充実させ、一人ひとりの子どもの心身ともに健全な育成を図ります。
 - 保護者、地域関係者、外部協力者との連携を図り、安全防災も含め、協働的に子どもを育てることを大切にします。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	① 問題提示、学習展開の工夫を行い、日常とのつながりを明確にすることで、学習意義を捉えて学習と向き合うことができるようにする。
担当	② 各教科、領域において言語活動の充実を図り、話し合いを重点化し、コミュニケーション能力を高める。
研究部	③ 朝学習（モジュール）を活用し、基礎基本の反復練習を自主的に行えるようにする。

2 各学年の見取り、学習意識調査等からの実態把握

一昨年度行った横浜市学力・学習状況調査によると、ほとんどの学年が学力は市の平均以上であったが、学力の低下傾向が見られた。

昨年度、学校独自で行った学習意識調査の結果を見ると、各教科における「授業はどの程度分かりますか」という質問に対しては、ほとんどの児童が「とてもわかる」「まあまあわかる」という回答だった。しかし実態を見てみると、どの学年を見ても、学力の個人差が大きい。これらのことから、本校の児童は、意識と実力が伴う子どもも多くいるが、学習事項の定着ができていないことを認識できていない児童も少なからずいることが分かる。

また、各教科における「学習は好きですか」という問いに対して、多くの教科が「とても好き」「まあまあ好き」が75%を超えていることから、学習が好き、楽しいと感じている児童が多いことも、本校の特徴の一つとしてとらえられる。

各教科における「友達と関わって、できるようになった、と思ったことがありましたか」という質問に対しては、全体的に「結構あった」「まあまああった」が75%以上を占めている。しかし、その2つを比べてみると、ほぼ同数、もしくは若干「まあまああった」の方が多い傾向が見られた。そして、「学習したことを、その後の学習や生活に生かしていこうと思うことがありましたか」という質問に対しては、その傾向がより顕著に見られた。

それらのことから考えると、本校の実態としては、

- 学習することが好きだと感じている児童は多い。
 - 学力の差が大きく、学習事項の定着ができていないことを認識できていない児童も少なからずいる。
 - 児童同士のコミュニケーションによる学び合いの有用感にさらなる高まりの余地がある。
 - 学習事項と実生活を結び付けて考えることに、さらなる高まりの余地がある。
- ということが分かる。

以上のことから、上記の重点取組分野を設定し、具体的取組を示した。

日常生活とのつながりを明確にすることで、生活の中で学習したことを使って問題解決することの良さに気づき、進んで実践していけるのではないかと考える。そのために、単元の導入部分や単元構成を工夫し、児童が生活と結び付けて思考しやすいようにしていく。また、その中で、友達と関わり合い、学び合い、高め合うことよきに気づき、その有用感を十分に味わうことで、自ら進んで友達の考えを取り入れ、それをもとに深く考え、学習を深化させていく姿がさらに多く見られるようになるのではないかと考える。そして、考えを深めるために必要な基礎基本の知識を確実に定着させることにより、より自信をもって学習と向き合うことができると考える。

また、学力の個人差の解消という点でも、この具体的取組は有効だと考える。全員が授業に参加し、考えを深め、主体的に学習と向き合うためには、必要感のある学習が不可欠となる。そのためには、生活と結び付け、学習することの意義を捉える必要がある。また、グループでの話し合いを意図的に授業に盛り込むことにより、自分の考えを発信したり、友達の考えを受けて思考を深めやすくなりできる。

このような取組を行い、目標とする資質・能力の育成を実現する授業づくりを目指していく。